

サッカークラブcasa沖縄、九州へ



6月28日(火)、第31回九州クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に県代表として派遣されるクラブチームのcasa沖縄の皆さんが佐喜眞市長を訪問しました。伊佐航平さんは「九州大会ではいい準備をして大会に挑み、全国大会の切符をつかみたい」と意気込みを語りました。

ぎのわんポニーズ日本代表選手に選抜



6月27日(月)、アジア太平洋地域選手権大会の日本代表選手に選抜された宜野湾ポニーズの皆さんが市役所を訪れ出場報告を行いました。宮城大弥さんは「日本代表として自分たちの力を精一杯出していきたい」と語りました。宮城さんは第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ日本代表選手にも選抜されました。

宜身協 絆 芸能まつり



7月3日(日)、市身体障がい者福祉協会(奥間朝彬理事長)による「第7回宜身協 絆 芸能まつり」が中央公民館集会場で開催され、様々な演目が披露されました。奥間理事長は「会員の自意識の向上と多くの市民の方々との交流を図りたい」と語りました。

犯罪・非行のない明るい社会を



7月5日(火)、第66回「社会を明るくする運動」にかかるメッセージが、総理大臣から市長へ、県知事から議長へ、県教育長から市教育長へ伝達されました。この運動は、すべての国民が犯罪の防止と更生について理解を深め、犯罪、非行のない明るい社会を築くための運動です。

コザ卓球クラブ全国へ



7月4日(月)、第34回全国ホープス卓球大会に県代表として派遣されるコザ卓球クラブの宮城翔吾さん(普天間第二小2年)と東政利さん(普天間小6年)が市役所を訪問し、出場報告を行いました。東さんは「全国では自分の力を発揮できるよう頑張りたい」と意気込みを語りました。

真志喜中女子サッカー部九州へ



7月11日(月)、真志喜中学校女子サッカー部(石川正信校長)の皆さんが市役所を訪れ、5月28日、29日に行われた第8回県中学校女子夏季サッカー選手権大会の優勝報告を行いました。部長の喜屋武杏優さんは「15名で必死に戦って優勝することができた。九州大会でも全員で力を合わせてベスト4以上を目指したい」と抱負を語りました。

まちニコ★ちびっこひろめ隊任命式



6月7日~6月21日の期間、まちでニコリあいさつ・声かけ運動の一環として、新小学1年生を対象に、まちニコちびっこひろめ隊任命式を実施しました。贈呈式には、まちニコ大使である、西向幸三さん、琉球ゴールデンキングスの津山尚大選手も参加し、新1年生にまちニコシールを贈呈しました。

市文化協会、石川親助様より寄付



6月29日(水)、「熊本・大分地震復興支援チャリティ公演〜一日も早い復興を願って〜」を行った市文化協会と、芸歴六十周年記念独演会を行った石川親助さんが市役所を訪れ、収益金の一部を熊本地震の義援金として寄付しました。義援金は、後日、日本赤十字社を通して被災地に届けました。

子どもたちの非行・被害を防ごう



7月15日(金)、「青少年の深夜はいかい防止」「未成年者飲酒防止」県民一斉行動宜野湾市民大会が中央公民館集会場にて開催されました。意見発表では、小学生、中学生、高校生および保護者の代表が体験をもとに健全な生活、家族の大切さ、非行防止について訴えました。

中学生が思いを語る



7月7日(木)、第26回宜野湾市「少年の主張大会」(主催:市青少年健全育成協議会)が中央公民館集会場で開催されました。市内4中学校代表の生徒が工夫を凝らして自分の考えを述べました。最優秀賞には「四分の一くらいの本当の事」の演題で発表を行った宜野湾中学校2年の前川美心さんが選ばれました。

管工事協同組合より市育英会へ寄付



6月22日(水)、宜野湾市管工事協同組合(山内聡代表理事)より、市育英会と市社会福祉協議会へ寄付金の贈呈がありました。山内代表理事は「これからも継続して地域社会に貢献していきたい」と語りました。

母校へ「筆文字」を寄贈



6月28日(火)、普天間中学校の卒業(48期卒業)生である新垣幸之さんが同校を訪問し、上江洲隆校長にご自身の「筆文字」を寄贈しました。この作品は昨年の「第二十一回清水寺『古と優艶の書画展』」に展示されたものです。新垣さんは「生徒の皆さんに見てもらいたい。夢をあきらめずに進んでほしい」と語り、上江洲校長は「心温まる筆文字が、生徒たちの心も癒してくれると思います」と感謝の言葉を述べました。